

2015年5月3日

## 第7回 Art & Archaeology フォーラムのお知らせ

これからの社会では、アーティストと考古学者が、社会の中のメディウムになる。少々挑戦的な言葉かもしれませんが、モノとモノ、モノとヒト、ヒトとヒト、そんな間をつなぐ魅力的な力を、アートと考古学はそれぞれ持っていると思います。

では、考古学がアートと出会うと、どのような果実が実るのでしょうか？実は近年、この問いを研究対象とする考古学者とアーティストが増えています。とりわけパブリック・アーケオロジーという分野で、考古学とそれ以外の世界をつなぐ仕組みを探る動きが盛んになっています。

このムーブメントが、世界中に広まりつつあることをご存知でしょうか。実は、4年に一度しか開催されない「考古学のオリンピック」である世界考古学会議（WAC）が、2016年に、ここ京都で開催されます。考古学者をはじめ、観光業者や学校教育関係者、そしてアーティストが世界中から集まります。このWACで、アート（芸術）&アーケオロジー（考古学）が特別なテーマとして扱われるのです。

そこで私たちは、伝統からポップまで多様な芸術に関わる人々に開かれたフォーラムを、考古学とアートが出会う場として始めたいと思います。和気あいあいと話し合える雰囲気を心がけていますので、どうぞ一度覗いてみてください。

記

★事前申込・不要

★参加費・無料

第7回テーマ： アーティストの考古学にふれる3

話題： 「眼の居場所」

話題提供者： 日下部一司（大阪芸術大学附属大阪美術専門学校 総合アート学科教授）

日常生活を通しての視点や対象となる物のあり方から、視覚の作用と認識（捉え方）の問題に触れる作品を制作してきた。版画や写真・経年劣化した素材による立体作品等、様々な媒体と手法を用いて発表を続けている。

もう一つの話： 毎回本物の発掘出土品 触察・解説タイムがあります

日時： 2015年5月30日（土）15:00～17:00

（触察タイム・発表60分程度＋意見交換60分程度）

場所： 京都文化博物館 本館6階（畳の部屋） <http://www.bunpaku.or.jp>

主催： A&A フォーラム事務局、WAC Japan・WAC-8 京都実行委員会、京都文化博物館

事務局： 松井利夫（京都造形芸術大学・陶芸）、安芸早穂子（復元画家）

中村大（立命館大学・考古）、村野正景（京都文化博物館・考古）

連絡先： 〒604-8183 京都府京都市中京区三条高倉

京都府京都文化博物館 学芸課 村野正景

Tel 075-222-0888（代） Email [m-murano@bunpaku.or.jp](mailto:m-murano@bunpaku.or.jp)